



今木啓一郎の 古今東西

Vol. 14
2019年
秋号

発行人 今木啓一郎 / 〒501-0222 瑞穂市別府438-1 ☎058-327-6331 (2019年11月7日発行)

素早く届く市民の声

携帯・スマートフォンを活用した

市民通報システム導入を！

7月下旬、瑞穂市内にて、夜間帰宅中の女性を狙った路上強盗事件が連続して発生しました。このような夜間の犯罪を未然に防ぐためには、市が管理する全ての街路灯、防犯灯が故障破損なく正常に機能していることが不可欠です。安心・安全で明るいまちづくりの推進・確立するため、この件に関する一般質問を致しました。



執行部の答弁によれば、「市が管理する街路灯、防犯灯は4691基と非常に多く設置されており、職員による点検は困難である。自治会長をはじめとする市民からの通報で不点灯や破損等の不具合を把握し修繕対応している。現在、定期的な一斉点検は実施しておらず、平成26年度国庫補助金を活用し交通量の多い道路に限定した点検は実施

した。」とのことでした。

かつて、平成29年9月議会において、全国の市区町村に広がりつつある「市民参加型通報システム」の導入を提言しました。

これは、街路灯のみならず、道路の陥没・ひび割れ、側溝蓋の損傷、街路樹の異常、ゴミの不法投棄、公園遊具の破損等を見つけた市民が、スマートフォン等で現場の写真と簡単な状況コメントを通報（投稿）する。通報を受けた行政の担当者は、現状に加え、写真に含まれた位置情報から正確な場所が特定できます。また、行政は管理するサイトで状況を随時更新し、通報（投稿）者に対しては対応状況をメール配信することも可能な市民参加型の仕組みです。また、多様化する市民のライフスタイルに対応する24時間・365日受付可能であり、同時に行政事務効率の向上の観点からも大いに必

おおつ 市街灯の不点灯

スマホで教えて



大津市の通報システム 大津市HPより

要性があると考え、令和元年9月議会にて再度導入の提言をしたところ、「最近では、スマートフォンやパソコンで通報できる市民通報システムを導入している市町も多くあり、開発費も比較的安価であると聞いています。夜間にしかわからない不具合を発見できる大変有効なものだと思います。しかし、セキュリティや操作方法等の課題があり、今後は費用だけでなく、メリット・デメリットを考慮して導入に向けた研究をしていきたい。」と前回の平成29年より少し前進した答弁でありました。今後も自助・共助（近助）・公助の連携と協働で、より一層安心・安全で明るいまちづくりを目指し、「市民参加型通報システム」の早期導入に向けて努力いたします。

側溝・水路清掃の 負担軽減に向けて

瑞穂市では、地域住民による側溝や水路内の泥をかき出す清掃が行われております。コンクリート蓋やグレートリングを持ち上げて外し、戻すという重労働で危険を伴う作業は、住民の減少と高齢化が進む自治会にとって大きな課題であり、継続が困難となりつつあります。

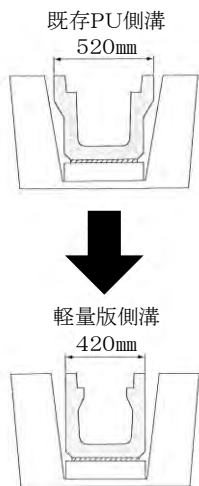
2枚連続に敷設されている箇所

そのような問題解決に向け、ある自治会において従来のグレートリングに新たに1枚加え、2枚連続に敷設し、側溝・水路清掃の簡便化に向けた社会実験がなされています。今後ますます困難となってくるであろう側溝・水路清掃の負担軽減に向け、市としての対応策について質問しました。

た。



「軽量版側溝と従来の蓋より約15%軽量化された軽量版側溝用コンクリート蓋があります。但し、既存PU側溝での使用が困難で側溝内空が狭く清掃しにくいといったデメリットもありますが、周辺が宅地化され土砂等の流入が少ない場所においては、負担軽減に繋がる有効なものだと思います。今後、側溝を新設する時や既存側溝自体の交換時など市発注の道路工事で試験的に使用して行きたい。」



対比図(例 300×300)

みずほバスの 利用者増に向けて

平成30年4月1日より4路線に再編されたみずほバスの利用状況について、平成30年度瑞穂市地域公共交通会議録等によれば、順調に利用者数は伸びているが、依然として、朝の利用が中心である。学生、大人の利用が増えている一方、交通弱者である高齢者の利用が減っていることが指摘されていることを踏まえ、次の提言をしました。

■ 最終便の利用者を増やすために、JR運行時刻を基にしたバス最終便出発時刻の見直し。

■ 月額定期券・買物や通院等で2路線以上の乗継乗車に対応する乗継割引券の発行。

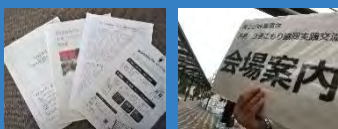
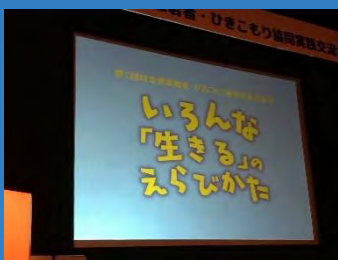
■ 高齢者の方より要望のある大規模市営墓地『ほづみ霊園』最寄りのバス停の設置。

※ほづみ霊園(瑞穂市別府2620番地1)は、1678区画(概算値)、そのうち概ね1600区画に所有者がいる大規模市営墓地。



く と ぴ つ く く

9月22日(日)「第2回岐阜県版若者・ひきこもり協同実践交流会」が瑞穂市総合センターにて開催されました。県内外からも多数参加されるというところで、穂積駅から会場への誘導をさせていただきました。また、全体シンポジウムと第5分科会「障がいと「ひきこもり」に参加。



まだまだ多様性が認められず「生きづらさ」への理解・協力が不十分な現状に考えさせられることばかり。

当事者・家族の方々の生の声を聞くことで、実情と支援との課題の共有ができ、当事者・家族・支援者・行政・市民などネットワークの大切さを感じました。